

「なぜ人ははたらくのか」

校長 安藤 徹



今日から11月です。令和4年もあと残り2か月となりました。

10月にはAB部門3年生の実習期間が終了し、この11月にはAB部門1、2年生の実習期間が予定されています。

私は実習前後の激励会や報告会ではいつも生徒たちに「実習ははたらく練習です。練習なのだから失敗や間違いをすることをおそれず、それよりも他の人への思いやりの気持ちや感謝の気持ちを大切にしながら働きましょう」と伝えるようにしています。

自分が高校生だったころのことを思い出してみても、わずか17歳、18歳という年齢で「はたらくこと」や「自分の進路・将来のこと」を自分事としてじっくり考え、仕事を選択・決定していくことはとても難しいことだし、不安な気持ちや分からないこともたくさん抱えているのも無理はないことだと思います。しかし、そのような中でも岩戸養護学校の生徒たちの一生懸命に実習に取り組んでいる「はたらく姿」にはいつも感心しています。



ところで、つい最近私は池上彰監修の「なぜ僕らははたらくのか～君が幸せになるために考えてほしい大切なこと～」(2020出版 学研)という本を読みました。この本には文字だけでなく、若い人たちにも読みやすいようにという配慮からイラストや漫画も多用されており、「仕事って何？」から始まり、「はたらき方」や「生き方」について、そして「どんな仕事に就くとよいのか?」「幸せにはたらくとは?」など、たくさんの切り口から「はたらく」ということをとらえ、少しでもはたらくことそして生きることに意味を持てるようになるためのいろいろなヒントを与えています。

私自身も22歳から今まで40年近く教員としてはたらいてきましたが、確かに「仕事って何だろう?」とか「なぜはたらくのか?」ということを実感にじっくり考えたことはなかったと今になって実感しています。現実的に考えればもちろん「お金を稼いで少しでも良い生活をするためにはたらく」という答えはすぐに出てきます。

しかし、この本の中では「仕事をする、はたらくことは誰かの役に立つこと」だと伝えています。どんな職業についても必ず誰かの役に立っているのです。反対に言い換えれば、私たちはいつも誰かに助けられながら仕事をしたり、毎日の生活を送っているということです。私たちが毎日の生活を送る時には、そこには必ず人と人とのつながりや助け合いがあるということを忘れてはいけないとこの本は教えてくれています。



また、「はたらいて生きていく」ためにはまず世の中のしくみや世の中にはいろいろな仕事があることを知ること、そして自分のやりたいことやどう生きたら幸せになるかを考え、自信をもって小さなことでもよいので行動してみる大切さについてもふれています。

そしてこの本の最後は「人生に正解はない」という言葉で締めくくられています。つまり、人それぞれどんな職業について、どんな生き方をすればよいのか、その問いに正解はないということです。「こんな仕事は・・・」とか「どうしてこんな生き方を・・・」そんな風に嘆くよりも、自分の無限の可能性を信じて、前向きにいろいろなことに取り組むことで自分の未知なる未来がひらけていくのだと思います。「なぜ人ははたらくのか・・・」時にはこんなテーマでご家族で話をしてみてはいかがでしょうか。 令和4年11月1日